「DXというワードは避けるべき」の真意

NORK RESEARCH

× ⇒「DXやAIという流行りのキーワードで攻めれば上手く行く」
◎ ⇒「DXやAIというワードに頼らず、中身を丁寧に訴求すべき」

2025年版 DX＆AIソリューションの導入パターン類型化と訴求策の提言レポート

ユーザ企業の不満
- DXとは何か？の説明が抽象的で、業績改善につながる提案になっていない ⇒ 17.1%
- DXの推進を謳っているが、提案されるIT商材は従来のものと何ら変わらない ⇒ 22.6%

ユーザ企業の一部では「DX」がネガティブワードになっている

DXやAIといったキーワードに頼らず、各分野の中身をきちんと伝えるべき

誰に何を伝えれば良いか？の判断が難しい

IT企業が実践すべき「提案DX」（※2）

ユーザから見ると、DXを提唱するIT企業の提案がむしろアナログ的

両者のギャップが最大の障壁

ベンダや販社/SIerの視点

技術視点

システム階層	
上位レイヤ（コンサル、サービス）	AI/データ分析
	ペーパレス化
	RPA＆ノーコード/ローコード開発
	テレワーク/モバイルワーク
中位レイヤ（アプリ、ソフト）	データ共有/連携
	クラウド/ネットワーク
	セキュリティ
下位レイヤ（インフラ、ハード）	※ IoT/XR/ウェアラブル/スマートデバイス
	※ ロボット/ドローン/3Dプリンタ

レポートの主題（※1）

左記の具体的な技術視点のソリューション毎に右記の業務視点とのギャップを埋める施策を分析/提言

実施手段 ←

対象業務 →

ユーザ企業の視点

業務視点

業種特化レベル（高い ↑ ↓ 低い）

- 製造/生産
- 物流/調達
- 営業/マーケティング
- 広告/広報
- 人事/給与/勤怠
- コミュニケーション
- 法務
- 会計/経理

※の2分野は新たなH/W導入が不可欠であることを踏まえて下位レイヤに配置しており、上位レイヤの取り組みが不要であることを意味するわけではない点に注意

※1に関する詳細： https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2025DXAI_user_rep.pdf
※2に関する詳細： https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2025DXproposal_rel1.pdf

出典：ノークリサーチ（2025年）